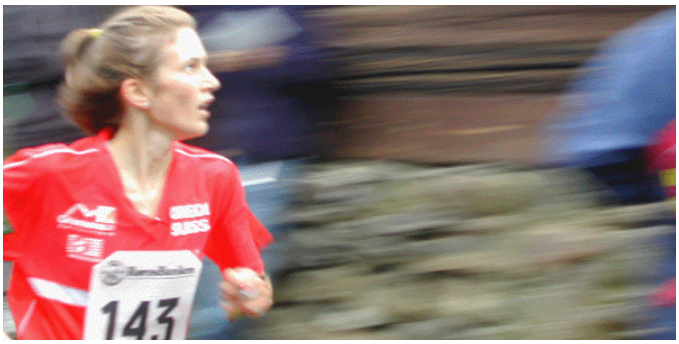
今、世界のオリエンテーリングは

今、シモーネが旬

今季、シモーネ・ルーダ（スイス）は絶好調。ノルウェーのショートこそ優勝をエンマ・エングストロムに譲ったものの、翌日のロングでは1分差で優勝。スウェーデンのウルトラロングでも優勝し、今季5勝目を挙げている。ランキングは381点で、2位のカタリーナ・アルベリとはすでに71点差でダントツのトップ。

シモーネ・ルーダは、昨年の世界選手権でもロングで優勝を果たしているが、来年は、自国スイスでの世界選手権であり、そこでの優勝に向けて、ますます気合が入っているに違いない。

▼ノルウェー・リョロスでのスプリントで、ラス前に向かうシモーネ



テリー・ジョルジョ、WC優勝にあと一歩

6月30日に開かれたWC第6戦で、フランスのテリー・ジョルジョが地元ノルウェーのビョルナ・バルシュタについで2位につけた。ジョルジョは、一昨年の世界学生選手権（フランス）では、開催国の意地を見せ、クラシック、ショート、リレーの全ての種目に優勝を果たすという結果を残しているが、資格制限のないWCまたは世界選手権では過去最高。非北欧勢の活躍に拍手！

▲テリー・ジョルジョ（フランス）ひげがトレードマーク

２１世紀はアジアの時代

7月上旬に開催されたIOF総会では、日本、中国、台北、香港、タイというアジアの5加盟国が集まった。これは過去最大数のアジア地区からの参加である。タイは今回の総会で加盟が認められ（準加盟）、台北は正式加盟となった。これで、アジアの加盟国は12、うち正式加盟は6ヶ国。IOF加盟国は現在61であり、最大数はヨーロッパの34である。オセアニアやアフリカ・アメリカに比べると、アジアにはまだまだ加盟国が増える余地がある。

21世紀の国際的オリエンテーリングシーンにおいて、アジアは大きな役割を果たす地域となることは間違いない。

▲IOF総会に集うアジア諸国の代表

ワールドカップはIOFのショーウィンドウ

ワールドカップはIOFの様々なレース形式のショーウィンドウである。今季のワールドカップでも、ノルウェーのリョロスでは、世界遺産の街中を選手たちが走りぬけるスプリントが、そしてスウェーデンでは、28kmに及ぶ大自然に挑戦するウルトラロングが試行された。

▲リョロスの街中で行われたスプリント競技。世界遺産と観客が環視するなかを走るリーサ・アンティラ（フィンランド）

―この夏のニュースを集めて―

村越　真

日本の後はデンマーク、そしていよいよ旧ソ連（ウクライナへ）

2006年、07年の世界選手権開催国の投票がIOF総会で行われた。

2006年に選ばれたのはデンマーク、2007年に選ばれたのはウクライナ。ウクライナは初の世界選手権開催となるが、世界一のオリエンテーリング大国であった旧ソ連の一画としても初の開催となる。

▲当選が決まり、思わず立ち上がるウクライナ代表

ＭＴＢにも世界選手権

フットとスキーは世界選手権が既に開催されているが、今年新たにMTBがその仲間に加わった。この大会は、IOF総会と平行して開催され、会場を訪れた代表団が競技を声援するシーンや、自国がメダルを取ったことを喜ぶIOF役員の姿などが見られた。

日本からは、落合公也を団長とする8名の選手が参加した。詳細は別記事を参照いただきたい。

なお、2004年より、トレイルOの世界選手権が開始される。

▼開会式での日本代表チーム

IOF理事会メンバーは順当に決まる

去る7月4日、フランスのパリ郊外で第21回IOF総会が開催された。この総会には、3名の代表団と、理事村越が出席した。日本は代表団の数が多かっただけではない。この中には、総会に併せて開催されるIOFの各種委員会の委員である羽鳥和重（情報技術委員会）、小山太朗（トレイルO委員会）も含まれており、長い「鎖国」を終えて、オリエンテーリングの世界でも本格的な国際貢献の時代に入った。

この総会では、これから2年間のIOFの運営に関わる理事の選挙も行われた。会長1名、副会長3名は、それぞれ定数どおりの立候補があり、現職のスー・ハーベイ（会長、左から3人目）、オーケ・ヤコブソン、ヒュー・カメロン、エドモンド・シェチェニー（いずれも副会長、左からこの順）が再選された。

理事には定数5のところを6名の立候補があった。注目すべきは、新規立候補のマーセル・シース（スイス）、オイビン・ホルト（ノルウェー）、レイホ・ハルドナ（エストニア）である。彼らは全て現在のフットO委員会のメンバーである。同一の委員会から3名の立候補があったことは、図らずもIOFの構造の中にある微妙な方向性の違いを浮き彫りにした。

副会長も入れると、現任には、オーケ・ヤコブソン、ヤンーエリック・クルスベリの2名の理事会メンバーがいる。この二人を併せると北欧諸国の候補は3名となる。これまで北欧諸国は話し合いで候補を2名に絞ってきたが、その慣習が崩れたところにもまた、IOFの方針に対する意見の食い違いがあることを如実に表している。

結局、「第三の」北欧候補であるオイビン・ホルトが落選し、現職のクルスベリ、ヨルダンカ、村越が再選、シース、ハルドナが新任された。

▲再任された理事会メンバー（名前は本文参照。一番右は、事務局長のバルブロ・ロネベリ